

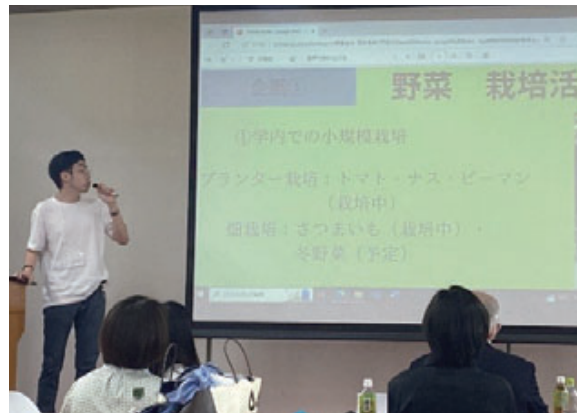


聖学院大学のボランティア活動支援センターとは普段からコミュニケーションを取っています。10月には、大学生の街頭募金への参加も依頼します。

6月には「赤い羽根審査員」の対象となった小中学校へ、聖学院大学ボランティア活動支援センターのコーディネーターと一緒に審査会の趣旨を説明しに出向きました。今年度は4校から6名の小中学生が審査員として参加することになりました。

「赤い羽根募金の使いみちがわからなかったで、知れたかった」「誰かの役に立てることが良かった」「最近

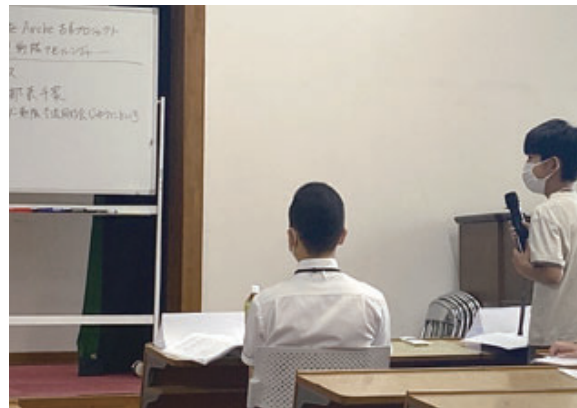
6/12~14
公開審査会の説明



いよいよ公開審査会、赤い羽根審査員は、1ポイント500円として1名あたり10ポイントを応援したい団体へ分配して投票しました。事前に審査資料を読み込み、学生のプレゼンを聞いた赤い羽根審査員からは「どうしてこのテーマで活動をしようと思ったのですか?」「助成金で買う防災グッズは具体的にどの時に使うのですか?」

6/24
公開審査会の開催

ボランティアに興味を持ったので参加してみた」と様々な理由で応募してくれました。



学生のプレゼンを聞いて赤い羽根審査員が質問を投げかけます。

「小中学校でインターネットの活用が進められている今、外遊びの活動を推進する理由が気になります。」といった質問が挙げられました。学生は、活動に対する思いや、なぜこの活動や費用が必要なのかについて、丁寧に答えていました。

審査会の最後には、「色々な募金の使いみちがあることがわかってよかったです。」「皆さんが全力で誰かのためになろうとしているのを感じられてとてもよかったです。」「集まったお金がどのように使われているかがわかったので、これからは募金をしていきたいと思います。」といった感想を発表してくれました。

助成を受けた団体は、プレゼン方式で報告を行うことになっています。審査員は報告を受けて評価も行うことになっています。

1/13
報告会の開催

公開審査会終了後、青柳さんが「みなさんぜひ10月の街頭募金にも参加してくださいね」と声をかけたところ、1人の中学生が「はい」とすぐに手を挙げてくれました。10月には、赤い羽根の助成金を受けて活動した学生と、赤い羽根審査員になった小中学生が、一緒に上尾駅での街頭募金へ立ちます。「自分で集めた募金がいみちで投票することで学生を応援する活動資金になる」という循環をつくっていきましょう」と青柳さんは話してくれました。



審査会を通して
街頭募金にも



担当者が走る!

共同募金に携わる、熱い担当者の密着取材!

今回の担当者

埼玉県・上尾市支会 **青柳 健太**さん



上尾市社会福祉協議会では、共同募金の統括を行っている総務課と、日ごろから地域住民と密接にかかわっている地域福祉課が連携しながら募金や助成を行っています。

青柳さん(中央)は、大学で福祉を学ぶ中で地域住民と一緒にしくみやサービスを作り上げることができる社協の仕事に魅力を感じ、前職を経て社協へ入局。地域福祉課のボランティア係として、市民のボランティア相談や戸別募金の依頼等に携わっています。

上司の佐藤京子さん(右)は、青柳さんが小学生のときに社協主催のボランティア体験に参加していた頃から知っているそうです。

後藤優香さん(左)は、大学で学んだ地域福祉を活かせる社協への憧れがあり、令和2年7月に転職して総務課の共同募金担当をしています。

小中学生が助成金の
使いみちを決める
「赤い羽根審査員」



上尾市社協では、小中学生が、赤い羽根審査員となり、大学生のボランティア活動への助成審査に参加することで、若年層の福祉に対する取り組みを支援する福祉教育を推進していきます。

きっかけは、2015年に上尾市の聖学院大学で開始した「ボランティア・まちづくり活動助成事業」です。同窓会の寄付金を原資とした助成金を、学生のボランティア団体へ配分するにあたり、学内だけにとどめず、地域に開かれた審査会にしたいという思いにより、公開審査会が行われています。

2019年からは、上尾市社協も共催し、共同募金の使いみちを小中学生が審査する「赤い羽根審査員」が加わりました。実際に募金活動を行っている児童や生徒たちが、共同募金配分金を財源とする活動の審査員になることで、共同募金の使いみちを見える化し、募金への理解や関心を高めるきっかけになることをねらいとしています。

また、赤い羽根審査員による審査会のあとに行われる一般審査員による審査には、社協職員もボランティアの専門家という立場で参加しています。

4/27 各小中学校へ
「赤い羽根審査員募集」の依頼

4月には、「赤い羽根審査員」を募集するため、教育委員会へ依頼し、市内の小中学校へ情報を届けます。もともとは大学が所在している地域の小中学校を対象としていましたが、教育委員会から「全校に募集したらどうか」との提案があり、現在は市内の小中学校全校へ案内しています。

《「赤い羽根審査員」募集チラシ》

青柳さんが原案を作成し、デザインが得意な佐藤さんに仕上げをお任せ!

佐藤さんが修正し、赤を基調とした目立ちやすいデザインになりました。